

教師海外研修（ブラジル）参加者の訪問先所感

1日目（7月23日（土））

サンパウロ到着

羽田からドーハを経由して約30時間。ブラジル・サンパウロに降り立った。飛行機での30時間の移動は、予想以上にきつかった。150年前、初めてブラジルに渡った人たちは、船で53日間かけてやってきたそうです。命がけでブラジルにわたったのだと感じました。（榊原）

2日目（7月24日（日））

イビラプエラ公園、リベルダージ地区散策

「ブラジルに日本庭園？」

サンパウロのイビラプエラ公園には、ジョギングやサイクリングをする人々や、家族でのんびりと過ごす人々の姿がありました。誰かと過ごす時間を大切にしていることが伝わってきました。散策に行った日はちょうど聖火リレーが通るということで、大盛り上がりでした。

また、公園の中にある日本庭園に一步足を踏みいれると、まるで本当に日本にいるかのような静かな空気と空間で、ブラジルで日本を感じることができました。リベルダージ地区も同様に、日本を思わせる建物やお店が多くあり、昔、日本から渡りブラジルの地で生きてきた人々がいるということを実感しました。（三上/川端下）



休日のイビラプエラ公園



日本庭園

日本移民史料館訪問

「移民の歴史を学ぶ」

館内ガイドをしてくださった日系2世のTAKEDAさんは、ブラジル到着当日のエピソードを2つ話してくださいました。1つ目は、移民船から上陸するとき、日本人は正装をし、しっかりとした足取りであったこと。53日間の過酷な船旅

にも関わらず、疲れもみせず、きちんとした身なりに配慮をしている日本人の姿に、多くの人は驚いたということでした。2つ目は、800人位で一か所で食事をしたときに、米粒一つ床に落ちていなかったこと。日本人が当たり前をやってきたことが、外国の人々にとっては新鮮な驚きだったということでした。これらの話から、私たち日本人が大切にすべきマナーや文化があることに気付かされました。（三上/川端下）



ガイドの方より説明を受けました

3日目（7月25日（月））

日系社会シニアボランティアとの交流

「受け継ぐ日本文化」

日系社会シニアボランティアとして和太鼓指導をしている、箕輪敏泰さんから、ボランティア参加の動機などを伺いました。箕輪さんは和太鼓の掟12箇条を作り、時間にルーズになってしまったり、練習にふさわしくない格好だったりする子どもたちに、日本で大切にされている姿勢、態度、精神などをしっかり伝えようとしていました。私達も、子どもたちに伝える仕事に就く者として、箕輪さんの妥協しないスタンスに心を動かされました。（富田/影山）



日系社会シニアボランティアの方と交流しました

コーヒー博物館訪問

「ブラジルといえば？」

ブラジルで有名なものといえば“コーヒー”。コーヒー博物館があるサントスの街は、昔、日本人以外にもヨーロッパの国々からの移民がコーヒー産業に携わり、発展してきました。19 世紀には、ブラジルのコーヒー農園主たちは主にヨーロッパからの移民を雇用して労働力を充足するようにしていました。そのため、現在そのルーツをもつ様々な人種・民族の人たちがブラジルで暮らしていることを知りました。（富田/影山）



コーヒー博物館の入口

4日目（7月26日（火））

サントス文化会館訪問

「愛される日本文化」

サントスに暮らす日系1世～3世の方々に話を伺いました。サントスが移民の街であるからこそ、自分自身が街の人に受け入れられて生活していると話してくださいました。また、日本語学校に足を運ぶ多くの方が非日系の方で、日本語を通して日本文化を学ぶ人が多くいることを教えていただきました。日本の反対側にある国で日本文化が様々な人に愛され、また日本文化や日本人が認められていることを学びました。（伊東/数間）



鶴の樹

日本移民上陸記念碑、移住100周年モニュメント訪問

「モニュメントから波の音？」

子どもからお年寄りまで色々な人が集まるサントスのエミサリオ・スブマリーノ公園には、「日本移民上陸記念碑」と、芸術家・大竹富江さん（ブラジルに移住し帰化した）作の「移住100周年モニュメント」があります。このモニュメントは、写真右下の位置に立つと、なんと波の音が聞こえてくるのです！耳を澄ますブラジル人もいました。大竹さんがブラジルを代表する芸術家であること、そして、このモニュメントがブラジル人の身近にあることを感じました。

（伊東/数間）



移住100周年モニュメント

5日目（7月27日（水））

サントス厚生ホーム訪問

「『ふるさと』を歌いました」

サントス厚生ホームは日系人の助け合いのもとに設立され、日本文化の中で老後を過ごしたいという方が集まった施設です。ホームの中には、日本人形や「春がきた」の歌詞、日本語の本など沢山の日本のものがありました。ここで私達は「島人ぬ宝」などの歌や演奏を行いました。ホームにはちょうど沖縄出身の方もいらっしゃり、笑顔で聞いてくださったのが印象的でした。最後に、ホームの皆さんと一緒に「ふるさと」を歌いました。

（富田/影山）



練習の成果を披露しました

【有償資金協力】 オンダリンパ事業視察

「地域住民の理解あってこそ」

人が生きるために欠かせない水。みんなが安全な水を使えるように水質汚濁改善に全力を注ぐオンダリンパ事業。JICAの有償資金協力により始められたプロジェクトで、安全な水が供給されるようになり、新生児の死亡率が大幅に下がりました。事業開始当初、水道料金が上がるのではないかと心配する住民の声があったため、住民への家庭訪問を計3回実施し、事業や工事、水道料金についての説明を行ったそうです。（富田/影山）



プロジェクトの様子を模型で確認できます

6日目（7月28日（木））

【技術協力】 国立アマゾン研究所視察

「環境問題を考える」

国立アマゾン研究所では、保護されたマナティの野生復帰へのプロジェクトやアマゾンの環境問題について様々な話を聞きました。アマゾンの森林破壊は、大豆畑と畜産業が大きな原因と言われています。世界中で食べられている鶏肉。そのニワトリの飼料として大豆が必要になり、アマゾンの森に巨大な大豆畑が出現しているそうです。このアマゾンの森林破壊は、遠いブラジルの話ではなく、日本で鶏肉を食べている私たちにも大きく関係していることを知りました。マナティの研究をしている大学研究員の菊池さんが言われた「日本の子どもたちに、日本とブラジルがつながっていることを伝えて欲しい。」という言葉が印象的でした。地球規模の環境問題は、何かしら自分たちの生活と関わりがあるはずです。子ども達と環境問題について考えていきたいと思いました。

（榊原/秋山）



保護された子どもマナティへの授乳

7日目（7月29日（金））

日本語・ポルトガル語バイリンガル公立学校訪問

「『起立、気をつけ、礼』』始まる学校」

この学校に通っている生徒たちのおよそ80%は、非日系人で、保護者が日系企業で働いていたり、日本のアニメやマンガから日本に興味を持ち、日本語を学びたいと思っている子どもたちです。「起立、気をつけ、礼！」の号令に合わせて、しっかりと礼をする生徒たち。算数では九九を、理科では固体、液体などの単語を、ポルトガル語と日本語の両方で学んでいました。生徒たちが日本語を学ぶことで、日本文化のもつ「尊敬」「礼儀」「整頓」などの精神を身につけてくれることを期待しているそうです。

（榊原/秋山）



「日本のイメージ」と「ブラジルのよいところ」
を書いてもらいました



授業風景

ジョゼフィーナ・デ・メーロ校訪問

「クラスは家族」

この学校では、1年生から9年生までクラス替えがありません。クラスの中で問題が起こっても、クラス替えによって問題を解決するのではなく、子ども同士じっくり時間をかけて解決していきます。「クラスは家族だから」という言葉から先生たちの熱い思いが伝わってきました。生徒たちと行った交流では、

けん玉が大好評！シンプルで誰でも楽しめる日本の遊びは、素晴らしいものだと再認識しました。（榊原/秋山）



日本の小学校からメッセージをプレゼント



けん玉が大好評でした

8日目（7月30日（土））

西部アマゾン日伯協会訪問

「ジャポネース・ガランチード」

アマゾナス州では、1929年から日本人の移住が始まり、1931年にはコーヒーの梱包に必要なジュートの栽培に成功しました。彼らの勤勉かつ真摯な振る舞いは高く評価されていて、「ジャポネース・ガランチード」＝「日本人は信頼できる」という言葉がブラジルにはあるほどです。

この地域にある西部アマゾン日伯協会には、日本文化を学びたい非日系のブラジル人学生が611人も通っています。写真の青年は剣道を習いに通ってきています。姿勢がとてもよく、お辞儀もでき、日本文化を通して礼儀も身につけられているように感じました。（三上/川端下）



剣道を習う青年

アマゾン散策

「アマゾンの神秘」

ネグロ川とソロモン川が合流し、アマゾン川になっていくミーティングポイントに行きました。この二つの川は、生息している生物や川の成分が異なり、手を入れてみると温度も違いました。この川には、絶滅危惧種であるマナティやカワイルカも生息していますが、川の水が濁っているため、どこに生息しているのかわかりにくいそうです。川の汚染や気候変動による川の水位の変化は、生物にとって命に関わる問題です。ブラジルが今後、環境に対してどのような取り組みを行っていくのか興味深いところです。

また、高さ40m から見渡すアマゾンの森は雄大でした。この森は、少しでもたくさん太陽の光を浴びようと、木が上に上に伸びていき、高い木が生い茂るようになったそうです。（三上/川端下）



ネグロ川とソロモン川のミーティングポイント

9日目（7月31日（日））

マナウスの市場で買い物

「笑顔のサービス満点！」

市場に到着して真っ先に目に入ったのは、枝がついた状態で売られている大量のバナナでした。歩いていくと日本でもおなじみの野菜や果物が売っていましたが、日本では見たこともない食材や、アマゾンでとれた魚など、ブラジルならではのものも沢山ありました。人々も明るく、カメラに向かって微笑んでくれるなど、サービス満点でした。（三上/川端下）



大量のバナナ



素敵な笑顔で対応してくれました

10日目（8月1日（月））

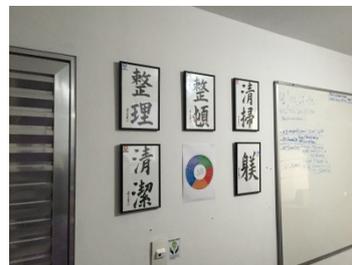
【技術協力】地域警察活動普及プロジェクト視察

「治安を守るKOBAN の挑戦」

JICA の技術協力プロジェクトによって、ブラジルには日本の交番システムが導入されており、日本式の「KOBAN」も設置されています。20 年前のこの地域では、強盗や殺人などの事件が日常茶飯事でした。地域と警察がパートナーシップを組み、安全対策に努めはじめてからは、犯罪が減少したそうです。210 箇所に置かれた交番の中には、警官が柔道やカポエラの講師となり青少年の非行を防止したり、サッカーW 杯の試合のパブリックビューイングをする交番もあり、子どもたちに寄り添いながら、絆を深めていっていました。（伊東/数間）



地域の警官の方に説明いただきました



「整理」「整頓」「清掃」「清潔」「躰」5Sの実践

サンパウロ市営市場で買い物

「教員の命『教材集め』」

市場はとても活気に満ち溢れていて、多くの人が値段交渉をしながら買い物をしていました。買い物中、これから学校の授業教材として使えるようなものがいくつもあり、それらを購入しました。（伊東/数間）



活気あふれる市場

マルピアラ学園訪問

「教員同士、本音で語り合う」

日系社会ボランティアの山根孝仁さんが活動している「マルピアラ学園」を訪問しました。アルマンド校長より、不登校やいじめ問題の対策、学校概要につ

いての説明を聞きました。先生方との意見交換会では、日本での学校の一日の過ごし方、教育現場でどのような困難にぶつかっているか、将来子どもたちに身に付けてほしい力についてなど、同じ仕事に就く仲間同士、活発な意見が飛び交いました。子どもたちとの交流会では、5年生80名が私たちを出迎えてくれて、楽しいひと時を過ごすことができました。（伊東/数間）



マルピアラ学園の先生方との意見交換会



子どもたちの様子

ピニャール移住地での歓迎会

「大迫力の和太鼓演奏」

日本語モデル校の子どもたちによる和太鼓の演奏で歓迎会が行われました。「飛翔太鼓」というチーム名で、2014年に日本大会で5位になった実力を持っています。体全体にしびれが来るほどの大迫力の演奏でした。子どもたちはみんな、礼儀作法、規律をしっかりと重んじていて、日系社会シニアボランティアとして和太鼓指導をしている、箕輪さんの力は大きいと感じました。（伊東/数間）



和太鼓の演奏で歓迎してくれました



子どもたちと一緒に

11日目（8月2日（火））

日本人移住者との交流

「ふるさとへの想い」

ピニャール移住地で生活する方々にじっくり話を伺いました。皆さん、移住当時の状況やその時の思いを一つ一つ丁寧に話してくださいました。自分たちのアイデンティティを「日本人」「ブラジル人」「日系人」と、その短すぎる言葉では表現しきれないと感じました。話を伺った方の中に自分と同郷の方がいて、それを知った時には固く手を取り合いました。ふるさとへの思いに触れた瞬間でした。

また、ピニャール移住地の剣道場を見学しました。そこには縁側があり、座ってみると不思議と心が落ち着く空間でした。ここがブラジルであるという事を忘れて日本にいるかのようなそんな感覚を体験できました。（工藤/枅見）



移住者の方にお話をお聞きしました



剣道場

農場訪問

「日本人移住者の貢献」

びわ作りをしている農場を見学しました。ブラジルに渡った日本人が、様々な野菜や果物を育てて根付かせたという歴史を見ることができました。

（工藤/枅見）



農場で作っているびわ

【草の根技術協力】PIPA 自閉症支援事業視察

「日本の技術が活かされる」

自閉症児療育・就労準備プロジェクトが実施されているPIPA（日系団体が運営する自閉症患者の児童たちの治療を専門としている施設）を視察しました。ブラジル国内の自閉症児・者の推定人数は、200 万人ともいわれ、未だに薬を用いて行動を抑制するという方法が一般的だそうですが、このPIPA では日本で行われている方法を取り入れ、自立や社会参加を目指した活動が行われていまし

た。この学校の卒業生がここで仕事をしていて、その落ち着きと正確さにプロジェクトの成果を感じました。（工藤/栞見）



Time	SEGUNDA	TERÇA	QUARTA	QUINTA	SEXTA
8:00-8:20					
8:25-9:10					
9:15-9:55	Português				
10:00-10:45	Matemática				
10:50-11:30	Matemática	Português			
11:35-12:25					
12:30-13:00					

学校の流れを視覚化していました

研修報告会

「無事終了！」

ブラジルにあるJICA 事務所とテレビ会議システムを使って、報告会を行いました。それぞれの訪問先で学んだこと、また、それらを今後の教育にどう実践するかを一人ずつ報告しました。（工藤/栞見）



報告会の様子